

〔図説〕 松本歯学 28 : 90~91, 2002

key words : *Limited cone beam CT — arthrosis deformans of the TMJ — head of mandible*

歯科用小照射野 X 線 CT (3 DX) 画像診断： 下顎頭の骨変形を明瞭に観察できた変形性顎関節症

内田 啓一, 新井 嘉則, 塩島 勝, 永山 哲聖

松本歯科大学 歯科放射線学講座

Diagnostic Imaging by Limited Cone beam CT (3 DX) :
Arthrosis Deformans of the TMJ in which Bone Deformation of
the Mandibular Condyle was Clearly Observed

KEIICHI UCHIDA, YOSHINORI ARAI, MASARU SHIOJIMA and TESSEI NAGAYAMA

Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

顎関節症の画像診断は各種の撮影を行い総合的に診断を行う。とくに変形性顎関節症の診断においてはパノラマ四分分割撮影法が推奨されている。しかし、何れの撮影法も 1 回の検査において前額断、矢状断、水平断と顎関節部を 3 方向から同時に観察するのは困難である。

今回、歯科用小照射野 X 線 CT (※モリタ製作所、京都、以下 3 DX) 検査により明瞭に顎関節頭部の骨変形を観察できた症例を経験したので、その画像を供覧する。

患者：76歳、女性。

初診日：2002年4月25日。

主訴：右側顎関節部の疼痛。

既往歴および家族歴：胆石の既往あり、現在は完治している。

現病歴：2001年夏頃から、右側顎関節部の疼痛を自覚するも改善傾向にあったため放置していた。

再度同症状が出現したため近位歯科を受診し咬合調整するも症状改善しないため、2002年4月25日、本学を精査希望にて受診した。

現症：

口腔外および口腔内所見：開口障害、開口時の右

側顎関節部の疼痛を認めた。上顎は無歯顎であった。

画像所見：断層方式パノラマ X 線写真、パノラマ四分分割 X 線写真において (写真 1, 2), 右側顎関節頭部の変形を認めるが, *erosive bone change, marginal proliferation, osteophyte formation*, 皮質骨および関節窩の骨の状態は観察できなかった。3 DX 画像においては、右側顎関節頭に粗造性骨変化と辺縁部骨増生像いわゆる骨棘を認めた (写真 3 △印)。

顎関節症の画像診断において断層方式パノラマ X 線撮影、パノラマ顎関節 (分割撮影) 撮影が必要であり、より高い診断精度の検査法 (断層撮影, X 線 CT 検査, MRI, 関節鏡など) を行った場合はこれらの画像所見を優先することになっている。今現在、3 DX は顎関節の骨評価における画像診断法には挙げられていない。しかしながら、本症例のように下顎頭の位置、下顎頭部の皮質骨の状態、海綿骨の骨梁、また矢状断、前額断、水平断において下顎窩と下顎頭の位置関係を多方向から観察できるため、その有用性と合理性は今後、大きな可能性があると思われる。

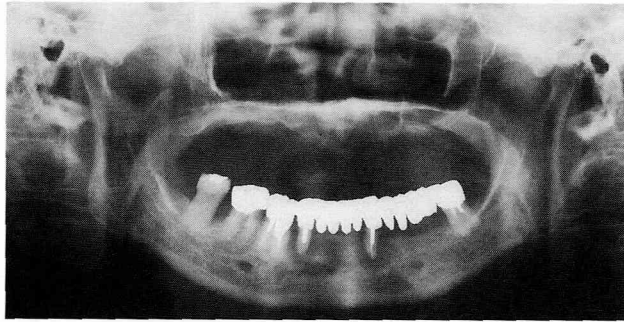


写真1

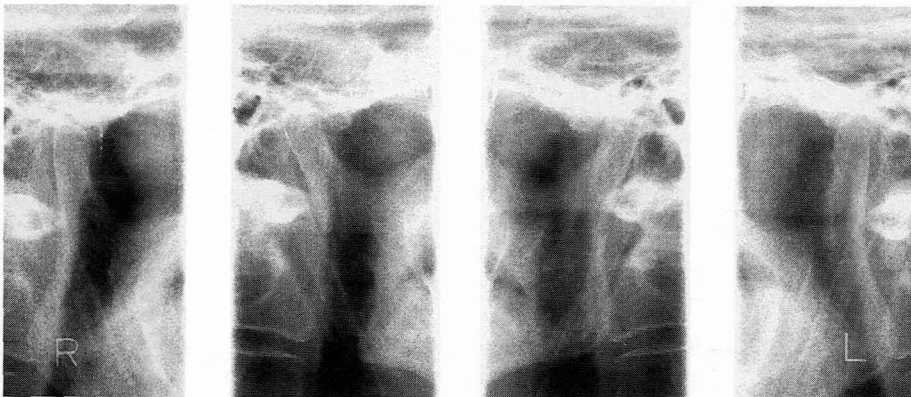


写真2

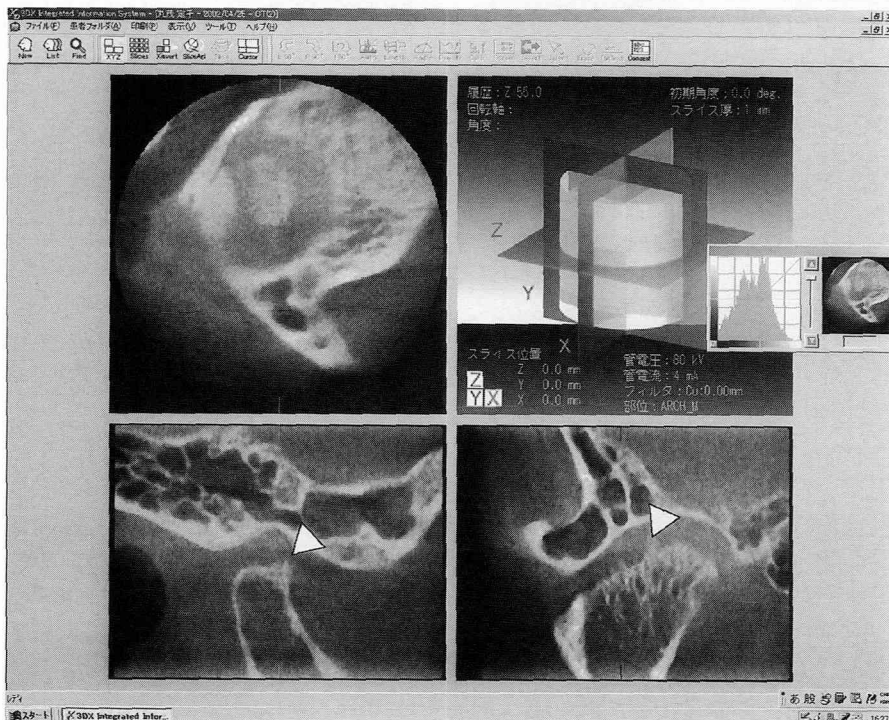


写真3

写真1, 2: 断層方式パノラマX線写真, パノラマ四分割X線写真において右側関節頭の変形を認める.
写真3: 3DX画像では, 右側顎関節頭に粗造性骨変化と辺縁部骨増生像として骨棘(△印)を認める.